

生活介護事業所 えがお

1 基本方針

地域に生活される障がい者が健康で生きがいを持ち、安心した自立生活ができるよう、充実した日中活動の提供と支援を行う。

また、地域住民等との連携強化や情報公開等による透明性の確保を図り、地域から信頼される事業所となるように努める。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡				
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)			
				GH	アパート等								
生活介護		30	34	0	0	0	0	0	0	0	8,101	100.8%	34
2棟	生活介護	30	34	0	0	0	0	0	0	0	7,986	98.6%	34

（2）障害支援区分

生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	7	9	3	21
女性	0	0	0	0	5	5	3	13
計	0	0	0	2	12	14	6	34

3 事業の実施状況

（1）相談及び援助の充実

職員が兼務しているため、日中（えがお）と生活（グループホーム）の両方の視点から利用者の状態を知ることができる強みを生かし、適切な支援を必要な時に提供するよう努めた。また在宅からの利用者についても、家族とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい環境づくりを心掛けた。

（2）日中活動支援の充実

生活介護事業所としての特色づくりに努め、日中活動を利用者の特性等に合わせて2班に分け、次のとおり充実を図った。

ア すきっぷ班（事業所内活動班：主に高齢者・病弱者のための介護予防、生きがいづくり）

介護予防の観点からの支援を軸に、健康体操や音楽療法、創作活動のプログラムを準備し、利用者の生きがいづくりに努めた。

利用者の多くが意思表示が困難な方が多いが、個々の能力や個性等を観察し、理解しながら活動の充実を図った。また、身体機能低下防止を図るため、3ヶ月に1回作業療法士の指導を受けて、利用者の身体機能の評価を行った。

イ ほほえみ班（事業所外活動班：主に社会生活力の向上、地域交流と貢献に寄与し、自立の促進と働く喜びに繋がる活動を提供）

地域の中で社会生活力の向上を目標に、生産活動等を行った。コロナウィルス感染症の流行が続いており、喫茶営業についても臨時休業や外部利用の中止をせざるを得ない期間が多く、昨年度に引き続き全体的に活動を縮小して実施した。

活動班内の作業においては、利用者が好む作業を可能な限り個別に提供し、賃金による工賃の支給だけではなく、収益を利用しての食事会や外出等により生産活動へのやりがいを引き出せるよう努めた。

(3) 地域との交流

コロナウイルス感染症の流行が続いており地域行事自体にも影響がある状況のため、生産活動で製造した商品の直販売の機会は失われたが、直売所への納品や役場花壇の管理委託は継続して行った。

今後も状況を見ながら地域とのふれあいを得られるような活動を継続していく。

(4) 経営改善・基盤の確立

ア コロナウイルス感染症防止対策のため外出や外泊の中止が増えたことにより、生活介護の利用が多くなった。

また高齢化のため外部の作業所等を利用されていた方が生活介護を利用される機会が増え、稼働率増となった。

イ 在宅からの利用促進のため施設の知名度を上げるPRをし、相談支援事業所、病院、養護学校、障害福祉サービス事業者等に積極的に働きかけ稼働率増に繋げていきたい。

(目標稼働率：100%、実施稼働率：100.8%)

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実績なし

(2) ボランティアの受入実績

人形劇 [延べ5人]

5 附帯事業

(1) 日中一時支援事業 定員 空床の範囲 (主な受入先：米子市、日南町)

(2) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
日中一時支援事業	2	287	2	252